

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970500623
法人名	医療法人 芙蓉会
事業所名	グループホーム芙蓉
所在地	〒 405-0076 山梨県笛吹市一宮町竹原田1359-1 電話番号 0553-47-7611

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年11月19日	評価確定日	平成20年12月22日

## 【情報提供票より】平成20年11月5日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	7人 非常勤 8人 常勤換算 12.6人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 0 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	51,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 償却の有無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

## (4) 利用者の概要 平成20年11月5日 現在

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	一宮温泉病院、笛吹中央病院、中川歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月3日

木造平屋建てのホームは、自然公園が隣接し、近くを幹線道路が走り、大型店が並ぶ。また、盆地や南アルプスを望むこともでき、大自然に囲まれた場所にある。管理者、職員は、常に利用者の意見、人権を尊重し、対等の立場でサービスを提供することを理念に掲げ、日々取り組んでいる。利用者は日中を居間で過ごすことが多く、中庭の飼い犬は話題の中心となることもあり、表情は明るい。ガラス越しに見える公園の森は、常に四季を感じられる。全職員が勤務調整をしながら、外部研修を段階的に受講し、サービスの質の向上を目指すことに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 少なかった記録を、業務日誌や観察記録等を密にし、個別に介護計画と一緒に見られるようにした。また、外部研修は職員のみだったが、パート職員も含め全職員が交代で受講できるよう、勤務調整をしながら取組を始めた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 評価の実施を職員は承知しているが、自己評価は管理者と介護計画作成担当者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの様子、外部評価の結果を報告し、地域との関わり、同業者の情報、ボランティア団体の受け入れ等について、協議、検討を図った。地域の老人クラブの訪問や、保育園からは、ホームのクリスマス会に参加協力の返事が得られた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時の他、毎月請求書送付の際、個別に写真と近況報告を書き同封している。苦情については、口頭や文章で伝えているが、特でない。今後は、返信用の用紙を渡し、無記名でホームに送ってもらう方法をと、出された意見や要望を運営に反映していきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会には加入していない。散歩時や市のマラソン大会の応援時には、挨拶を交わす。近隣や学校等にホームへの訪問を呼びかけたところ、老人クラブ、保育園から、訪問をしてもらえる返事が得られた。利用者は、特別な高齢者と思われ、認知症への理解度が浅い。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホーム芙蓉

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と対等の立場にたち、利用者の意見及び人権を尊重し、地域の中で楽しく暮らせるよう、精一杯の支援をすることを理念とし、玄関や事務所の目につきやすい場所に掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、法人グループの事務長と共に、会議の際、口頭で理念について確認をすることはあるが、日常的な確認にまでは至らず、全職員の共有と実践の統一化は図られていない。	○	管理者及び職員は、日常的に会議や実践の場で理念の確認と共有に努め、サービスの質の向上を目指し、取り組まれることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時や市のマラソン大会の応援時には、挨拶を交わす。近隣や学校等に、ホームへの訪問依頼をしたところ、老人クラブの訪問や、保育園からはクリスマス会への参加協力の返事が得られた。地域の一員としての交流にまでは、至っていない。	○	認知症への正しい理解と併せ、ホームの意義と役割の理解が得られるよう、自治会への加入も考慮に入れ、地域の一員として、あたりまえに暮らしていける支援に取り組むことが望まれる。運営推進会議にて、課題として検討されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価実施を職員は承知しているが、自己評価は、管理者と介護計画作成担当者でまとめた。改善点は、少なかった記録を、業務日誌、観察記録等を密にし、個別に介護計画と一緒に見られるようにした。また、外部研修は全職員が交代で受講できるよう取り組んでいる。	○	運営者、管理者は、評価に対する意義と理解を深め、利用者の視点にたち、理念に沿って、積極的に取り組むことを期待する。また、自己評価や評価結果の見直しは、全職員が参加し、話し合うことが重要であり、サービスの質の向上につながることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月毎に実施し、ホームの状況報告の他、ボランティアの受け入れや同業者の情報につき、課題として話し合った。地域のボランティアグループに民生委員が働きかけ、ホームへの訪問の協力が得られるようになった。家族からの意見はほとんどない。	○	評価結果の報告と併せ、見直し項目を検討課題として出された意見や要望が、改善に向けた取り組みに活かされ、サービスの質の向上に、つながることを期待する。家族の意見を引き出し、実践に活かされるよう、会議への参加を、全家族に呼びかけるのも1つの方法と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3か月に一度、市の連絡協議会に参加し、施設や同業者と意見交換を行っている。市職員が運営推進会議のメンバーとして参加しており、出された意見や課題についてアドバイスを受けている。	○	市の担当の課にホームの様子を伝えたり、窓口にパンフレットを置いてもらうなど、また、市職員の研修や、認知症に関する講座等に事業所を活用してもらえるよう働きかけることも大切である。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時の他、毎月請求書送付の際、個別に写真と近況を書いた便りを入れている。同時に金銭出納帳のコピーも同封しているが、家族からの確認のサインは受けていない。「ふよう便り」を年2回発行している。	○	金銭出納の報告は、コピーを送付するのみでなく、面会時等を利用して、家族から確認のサインを受けることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、個々への便りの中で、意見を遠慮なく言ってもらえるよう、文章で伝えているが、特に苦情は無い。苦情箱は、家族への配慮から設置していない。返信専用の用紙を渡し、無記名でホームに送ってもらう方法を考えている。	○	無記名で意見を受ける方法と、行事への参加の際、家族同士だけの話し合いの場を設けるなどし、意見や要望を引き出すことに努め、出された意見や要望を実践の場に活かしていくことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新採用者は、ユニット毎に3日間位ずつ先輩職員が行動を共にし、利用者との馴染みの関係をつくる。事務所の左右に各ユニットがあり、職員は互いの状況に合わせて往来するので、両方の利用者とは顔馴染みであり、離職や採用への影響は特に無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修には、全職員が参加している。グループホーム協会や外部の研修は、段階的な研修を全職員が交代で受講できるよう取り組みを始めた。受講者は、会議の際、全職員に内容を伝達している。特に、採用時研修の強化を重要と考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し、勉強会や同業者との情報交換を行い、実践の場に活かしている。今後、同業者への見学や情報の収集に努め、サービスの向上を目指す姿勢がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、管理者、又は介護計画作成担当者が自宅を訪問し、本人や家族と十分に話し合っている。また、見学や体験入居等で、職員と顔馴染みの関係をつくり、利用開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のつもりで「思いやりの心」を持ち、日々支援に努めている。赤飯の打ち水とふかし方、手打ちうどん、漬物の漬け方等、利用者から学び、共に自信や喜びを感じ合える関係が築かれている。しかし、全ての利用者と共に過ごし支え合う関係を築くまでには至っていない。	○	家族の協力も得ながら、生活歴を再確認し、個々の得意分野で、その人らしさを発揮できるよう、場面づくりに努め、全ての利用者と共に支え合える関係が築かれることに期待する。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり希望を聞きながら、その日の状況に合わせて、その人らしく過ごしてもらえよう支援している。把握困難の利用者の場合は、生活歴、日々の記録や関わりの中から把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式によるアセスメントが、個々にファイルされ、事業所に置いてある。また、センター方式で、心身の状況、私の姿と気持ち等が、カードックスに記入され、職員は、ケアプランと観察記録を、常に現場にて確認しながら支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回、定期的実施し、職員の意見を参考にし、問題点を話し合い、見直しを行って、家族に報告をする。また、状態に変化がある場合は、随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり、主治医への受診に同行、個人的な買い物への同行、また、近くの自宅の様子を職員と一緒に見に行く等、個々の要望に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医がおり、家族が同伴している。職員が、代わりに同行することもある。受診に出向くのが困難になった利用者には、かかりつけ医の理解が得られ、往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化には、本人の現状を見ながら、家族と話し合いをしている。終末期の在り方については、話し合いのできる方には、方針を聞き、その都度、対応を考えていく。現状では、対象者はいないが、要望に対応できる体制づくりを考えている。	○	本人や家族の意向を把握し、その方針を共有することは、重要である。重度化や終末期における対応の指針を定め、家族、医師、看護師等と十分に話し合いを重ね、本人が安心して過ごせるよう、支援されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議等の際、対応について指導しているが、トイレ誘導の声かけや、個々への対応に職員の個人差があり、徹底には至っていない。個人情報、事務所に保管されている。	○	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、声かけや対応には、細心の配慮が大切である。人権、尊厳に対する認識の重要性を全職員が共有し、日常的に支援することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	援助目標に「一人一人のペースに合わせた援助」を掲げ、指導している。食事のペースや入浴時間帯と回数等、その人に合った支援がなされているが、職員の都合が優先されることもある。	○	本人が、その日をどのように過ごしたいかを把握し、ペースに合わせた支援をすることが大切である。職員は、利用者のペースを尊重する認識を共有し、その人に合った支援がなされることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、毎日業者が配達。利用者は、紅葉をあしらった盛り付けに笑顔で「毎日おいしい食事に感謝」と言い、職員と一緒に和やかに食べている。ノロウイルス発生の体験後は、特に調理に対し過敏になり、下準備程度のみ一緒に行っている。	○	ノロウイルス発生への影響を引きずることなく、考えを前向きに改め、準備から後片付けに至るまで、個々に合った場面で力を発揮してもらい、自信や楽しみにつながる支援が重要であることを再確認されることが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日が習慣となっている利用者は、毎日入浴、他は週3回の支援が日常的である。拒否が続く場合は、家族に促しを依頼したり、着替え、清拭、足浴で対応している。利用者本位を目標にしているが、毎日の入浴者に対し、職員から特別扱いではないかとの声がある。	○	個々の習慣や、その時々意向に合わせた支援が大切である。職員の都合や考えを優先することなく、時間帯や習慣等について、家族に相談しながら、くつろいだ気分で入浴を楽しんでもらえる支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳、洗濯物干しとたたみ、菜園や中庭の手入れ、新聞整理等、個々が役割を見つけ、力を発揮している。また、レクリエーションはじめ、ユニットが合同で、カラオケを楽しむ等、場面づくりへの工夫に努めている。中庭で飼う犬も癒しとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、隣接する自然公園に散歩をしている。また、併設施設のバスを借り、ユニット毎にイチゴ狩りや、富士五湖方面、広瀬ダム等へドライブし、外食を楽しむ。その他、桜、桃、藤の花の花見にも出かけ、五感刺激への機会に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことについて、全職員と協議検討をした結果、隣接に大型ショップと幹線道路が走り、交通量と防犯面を考え、利用者の安全面を最優先し、日中でも施錠することが最善という考えに達した。	○	なぜ外出したくなるのか、その理由を把握し、安全面に配慮しながら一緒について行くなどし、鍵をかけない見守り支援への工夫が重要と考える。近隣への協力の働きかけや、見守り支援を再検討されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	市の避難指定施設となっている。また、年2回定期的に防災設備取扱業者の指導で、昼夜を想定し、車椅子、押し車使用も含めての訓練を実施、また併設施設と合同で、消防署による救命救急の訓練も実施している。しかし、夜間を想定した訓練は、夜勤専門の職員のみが対応しているため、日勤職員との連携や情報の共有まではできていない。	○	夜間は両ユニットを夜勤専門の職員一人が担当、定時の見回りはするが、事務所からはどちらの居室も見通しはきかない。全ての職員が、昼夜を通じて、様々な時間帯に対応できるよう、情報の共有や連携ができるような取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを取り入れた献立は、併設施設の管理栄養士にチェックしてもらい、栄養バランスのとれた食事となっている。食事量、水分量は毎食チェックし、記録されている。また、個々の誕生日には、お赤飯をふかし、みんなで祝いする。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの暦、テレビ、ソファが置かれた居間、吹き抜けの食堂、台所が一体となり、広く明るい。壁面には、利用者の作品や行事の写真が飾られている。大きなガラス越しには、中庭の飼い犬や公園の森が見え、五感刺激を受けながら自由に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテーブル、椅子、日用品が持ち込まれ、季節の鉢植えや自作の作品が飾られている。大きな収納戸棚がある居室は、清潔感が保たれた、その人らしい部屋づくりとなっている。		